

事例番号31 高等学校 総合的な学習の時間の部

総合的な学習の時間を生かす教育実践の在り方

奈良県立高田高等学校 総合的な学習の時間「探究」 桐山信一、阪田安弘

1 実践内容

平成6、7年度に文部省、奈良県教育委員会の指定を受け、「生徒の能力、興味・関心に応じて多様な選択科目が履修できるようにするための教育課程の編成・実施上の工夫」を主題に研究が進められた。その中で、生徒たちに自主的・主体的な学習姿勢をどうやって身につけさせるのか、学習に対する意義や学



ぶ喜びを見いださせるにはどうすればよいのかといった問題の解決を期して、平成8年に合科カリキュラム的な総合学習を意識しつつ、新教科「探究」が生まれた。「探究」では、1年生に設定した4つの科目「やまと学」、「海外事情」、「環境」、「福祉と共生」において、複数教科の教員によるチーム・ティーチングの授業が行われた。各教科の教員が授業で実施している手法を発揮しての手作りの教材が生徒の学習心をつかみ、学校の知識を越えた学びを経験させることができ、教室での一斉授業では不足しがちな思考力・表現力の基礎が育成することができた。生徒の授業評価では、積極的に取り組めたとする者が約8割、興味を持てたとする者が約7割、得たものがあるとする者が約7割など、好結果を得ている。このように、平成15年度に教科「探究」が総合的な学習の時間「探究」となるまでに、そのための教育内容や教員組織の運営手法は着実に蓄積されていった。平成11、12年あたり ▼「環境」 紫外線の観察 ▼「海外事情」 留学生との交流

をピークに、全国からの講演依頼が殺到し、各科のチーフが対応に迫られた。同時に、高田の「探究」の名と実践は全国へ広がった。平成13年になると、実践を継承・発展するために、各科の指導案・授業記録・授業プリントなどを総合的に盛り込んだ資料集として私家版ではあるが、「探究科の実践と分析—総合的な学習に向けての発信—」が発刊された。これにより、高田の「探究」の実践は地元の県内高等学校にも普及した。



▲「福祉と共生」ディベート ▲「やまと学」発表会

上の写真は、各コースの活動の一例である。

平成15年度は、総合的な学習の時間「探究」としてのスタートの年となり、前年度から行われてきた評価研究をもとに観点別評価を実施し、「探究」と各教科との連携、生徒の進路指導との連携を密にする教育実践をさらに進めることとなった。平成16年度は、生徒の多様な進路選択に対応すべく、従来の4コースに加えて、新しく「芸術・文化」、

「教育基礎」の新コースを実施し、各教科との連携を模索しつつ、学校的枠組みを越えた現実や文化と直結した学習とするため、多彩な外部講師による授業の充実を行った。このような学習により、生徒は自己の進路を切り開く力をつけることができると考えた。事実、本校では探究で学んだ内容と関連する進路選択をする生徒も少なくない。各コースにおいて、具体的には次のような授業改善の手だてを講じた。

- ① 環境：水、土、太陽紫外線、ゴミをテーマにした環境教育クロスカリキュラムの実施。
- ② やまと学：日本史と古典による郷土・歴史に関する統合的指導の実施。
- ③ 海外事情：共感的理解の視点から留学生との交流会などの体験学習の実施。
- ④ 福祉と共生：共感的理解の視点からフィールドワークの充実。
- ⑤ 教育基礎：「いじめ」「不登校」などの今日的課題に関する講演と実習。
- ⑥ 芸術・文化：桐竹勘十郎氏による講演・人形浄瑠璃「義経千本桜」の創作。



その結果、2つの新コースがともに充実した内容となり、生徒による授業評価でも、文章力や表現力が獲得されたとする割合が例年以上に高まった。

左の写真は、新コースの活動の一例である。

▲「教育基礎」発表会

▲「芸術・文化」人形浄瑠璃の公演

なお、平成18年度開設の教育コース（1クラス）の生徒については、「教育基礎」を履修することになる。

2 成果及び課題

以上のように、平成8年度から実施された教科「探究」は、生徒の学習意欲を引き出すことに成功し、本校の特色の一つとなり、さらには全国における総合的な学習の時間の先駆けとなる実践となった。平成17年度の「探究」は、次の二つの課題をもって新しい教育内容の実践に取り組むことが求められている。

一つは、教科との関連を重視した協同学習の実施と新しい発表形式の模索である。従来の発表形式を見直し、教科の内容とより関連させた学習の総決算となる発表の形式を模索しなければならない。もう一つは、生徒の進路選択に適應した教育内容の再編成である。一人一人の生徒が進路実現のために、知・徳・体のバランスの良い発達を保障し、実質的な学校生活を確立するという全体的な視点から「探究」を再考し、新しい学習内容・運営の在り方を模索することが大切である。

3 その他参考となる事項

- (1) 桐山信一、奥田 智ほか：「探究科」の実践と分析-総合的な学習に向けての発信-、2001 奈良県立高田高等学校私家版
- (2) 奈良県立高田高等学校ホームページ：<http://www.nar-takada-h.ed.jp/>